

保健体育科教員免許状取得を目指す学生における保健授業での「欲求やストレスとその対処」の指導に対する意識

—平成 29 年改訂の学習指導要領で示された内容に着目して—

城 工 (宇都宮大学大学院)

1. 目的

本研究では、保健体育科教師の養成段階にある大学生を対象として、平成 29 年の学習指導要領の改訂で充実が図られた中学校の保健分野における「欲求やストレスとその対処」の内容について指導する自信等の実態を調査し、今後の教員養成段階においてストレスに関する内容を指導する資質・能力を高めていくための方策を検討することを目的とした。

2. 研究方法

国立大学 3 校および私立大学 1 校の教育学部において中学校保健体育科の教員免許取得を目指す 2～4 年生 161 名を対象とした質問紙調査を実施した。分析にあたっては、各質問項目への回答についての単純集計とクロス集計及び χ^2 検定を行い、自由記述については、KJ 法を用いた分類と KH coder を用いたテキストマイニングを行った。

3. 結果と考察

1) 学習内容を指導する自信

保健授業において「ストレスの特性や対処法についての知識」、「ストレスの対処法についての技能」、「ストレスの対処法についての思考力・判断力・表現力等」の各事項を、指導する自信が「ある」と回答した学生は約 3～4 割にとどまっていた (図 1)。指導する自信が「ない」と回答した学生におけるその理由 (自由記述) を分類すると、例えば「ストレスの特性や対処法の知識」では、「知識不足」(例: 自分に指導できるほどの知識がないから)、「ストレスの個人差への不安」(例: 人それぞれ対処法が異なるため、選択肢が幅広く危険なものがあるかもしれないから) などのカテゴリーが示された。また、「ストレスへの対処法の技能」では、「技能への理解不足」(例: リラクゼーションの方法を具体的に知らないから) のカテゴリー、「ストレスの対処法についての思考力・判断力・表現力等」では、「指導上の不安」(例: 評価の仕方が分からないから)、「経験不足」(例: ストレスを活用すること

に対してあまり考えたことがなかったため) のカテゴリーなどが示された。

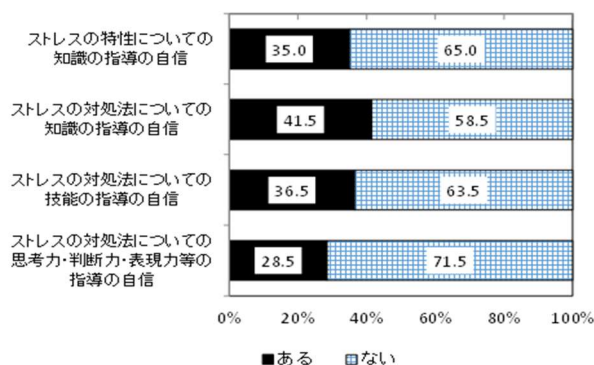


図 1 「欲求やストレスとその対処」の内容を指導する自信

2) 各種指導方法を用いて授業を行う自信

ストレスに関わる内容について、各種指導方法を用いて指導する自信が「ある」と答えた学生は、「教科書」「ワークシート」「話し合い活動」では 5～6 割、「発問」「教材・教具」「実践や実習」では 2～3 割にとどまっていた。養成段階の学生は、ストレスの特徴やその対処法について、生徒の興味・関心を高めたり、思考を深めたり、実践力を高めたりするなどの指導方法の工夫に自信がないことが示された。

4. 結論

保健体育科の教員養成段階にある学生における「欲求やストレスとその対処」の内容についての知識や技能、思考力、判断力、表現力等を指導する自信は不十分であった。今後の教員養成段階では、「学校保健」や「衛生学及び公衆衛生学」などの専門科目において、ストレスの特性や対処法などを含む精神の健康に関する内容の一層の充実を図ったり、教育心理に関する科目との連携を図ってストレスに関する知識をより深まりを持って学ばせたりするなどの取組が望まれよう。また、保健体育科教育法 (指導法) などにおいて、「欲求やストレスとその対処」の内容についての模擬授業を積極的に取り入れ、各種指導方法を活用させながら指導する自信を、実践を通して高めるなどの取組も必要と考える。